

国語

入試直前対策問題

【問一】 次の文章を読んで、下の各問いに答えなさい。ただし、①～⑧は各段落の番号を示す。

① 「浅い話」、「深い話」といわれても、漠然としていてわかりづらいものです。実際に、どのような違いがあるのか。具体的にみていきましょう。

② 「実のない話」という言い方をよくしますが、誰かの話を聞いて、「結局、なんにも意味がなかったなあ」と感じるときは、聞いている側がまったく変化を起こさない、化学反応を起こさない話だったということです。これは「浅い話」の典型といえます。一方、「深い話」は、聞き手側の心の部分、感情部分を揺り動かしたり、これまでもっていた考え方を突き動かしたりするものです。話を聞いて、「へえー、そうなのか」と驚きや気づきがあったり、「なるほど、そういうことか」とじんわりと理解が深まったり、「そんな考え方ができたらすてきななあ」と憧れの気持ちを起こさせたり、聞き手側の感情の部分を刺激します。そして感情が動かされたとき、人はこれまでもっていた考え方、見方に変化を起こします。このときの自分が更新されていく、自分のなかの何かが変わったという感覚こそが、相手の話を「深い話」と印象づけるのです。

③ 聞き手側に変化を促す「深い話」をするためには、大きく分けて以下の3つの能力が必要になってきます。ひとつ目は「展開力」です。情報力、知識力と言いつてもいいかもしれませんが、まず大前提として、薄っぺらな話に終わらないだけの情報量と知識量が必要になります。それを自分なりに入手して、話を推進していく展開力を身につけないと、深い話を構築していくことはできません。そして2つ目が、「本質把握力」になります。上っ面をなぞっているだけの話では結局、何も相手の心には残りません。核心の部分、本質をつかみ、それを提示する力があると話はどう든深いものになっていきます。最後の3つ目は、「具体化力」です。「提案力」と言い換えてもいいかもしれませんが、話が抽象的なものに終始してしまうと、結局、聞き手の心までは動かせません。(中略)

④ 深い話をするためには、ある程度の情報量が必要ですが、だからといって、やみくもに情報を集めて話のなかに盛り込んでいけばいいというわけではありません。情報を集める際に気をつけるべきことがひとつあります。それは、「角度をつける」ということです。ひとつの方向から見た情報や意見だけを並べて話を進めても、どうしても平板で浅い話に陥りがちです。しかし、自分の意見は「これだ」と決めつける前に、もうひとつ別のポジションから見た違う意見や情報を積極的に話に取り入れていくと、話は深くなっていきます。「私たちにはこのよ

25

20

15

10

5

(1) 文章中の~~~~線部の漢字の読みをひらがなで書きなさい。

- ① 平板 ② 陥り ③ 競合

- ④ 触れ ⑤ 執着 ⑥ 勧め

(2) 線部a～eのうち、品詞が同じであるものを二つ選び、記号を書きなさい。

(3) それぞれの段落に見られる表現の特徴を述べたものとして適切なものを、次のア～エから二つ選び、記号を書きなさい。

ア ②段落では、①段落で提示された文章のテーマに沿って、筆者の考えるその定義を平易な言葉でわかりやすく説明している。

イ ③段落では、②段落で提示した一般論を具体的な事象にあてはめて説明することで、筆者の意見の正当性を補強している。

ウ ④段落では、③段落までで述べた話題を転換し、新たな問題提起を行い、それに対する筆者独自の解釈を読み手に紹介している。

エ ⑤段落では、④段落で述べた内容に即した身近なたとえを効果的に用い、筆者の意見に対する読み手の納得感を増している。

(4) 線部①に関して、本文の内容を踏まえ、次のようにまとめた。A～Dに当てはまる最も適切な言葉を、

A は本文中から七字で抜き出して書き、
B～D はあとのア～クからそれぞれ一つずつ選び、記号を書きなさい。

A 浅い話に終わらないためには、土台としてある程度のAが求められ、それをもとに話をBしていく必

うに考えられるが、競合の他社から見たらこうである」、「これは利益に見えるが、別の見方では、実はこのような不利益をもたらしている」など、他の視点からの情報、意見を織り交ぜると、角度がつくぶん、話に奥行きが出てくるのです。つまり、情報収集の際には、角度をつけて、別の視点からの意見や情報を意識的に集めることが、深い話をするためには重要なのです。「一般的にはこう言われていますが、反対から見るとこうなっている」などと触れながら、最終的に、自分の価値判断に従って意見を述べればいいのです。

⑤ このように、別の視点が加わると深みが出るというのは、片目でものを見ると距離感がつかめませんが、両目で見ると奥行きがわかるようになるのと同じことです。情報収集は、常に「両眼視」できているかを意識しながら進めると効果的です。自分の意見や立場に依拠した情報だけに偏っていないか、常にチェックをしてみましょう。ひとつの立場に偏らず、「別の視点からはどう見えるだろうか」と発想を転換して思考することが大切なのです。それらを組み入れながら、自分の話を展開していければ、必ず深い話になっていきます。

⑥ 自分とは別の視点の情報を収集する場合、役に立つのがネットニュースです。時事問題などについて話す際は、特に便利です。ネットのニュース記事をいくつか照合すると事の詳細を知ることができますが、それ以上に、各ニュースに付属しているコメント欄が重要だといえます。そこに載っているコメントは、必ずしも客観的で、すべて事実在即しているとはいい切れませんが、自分とは違った別の視点を手取り早く知るにはとても有意義なものです。これまでまったく思い浮かばなかった別の意見に、気づかされることもよくあることです。コメント欄を読み進めると、ときには自分自身が「この問題はこうである」と結論づけていたことも、反対の立場の意見が意外に多いことに気づかされたりします。

⑦ そのような場合は、その問題に関連してメディアで発言をする際、私は自分の意見だけに執着せず、反対の視点にもある程度のウェイトを置いて、バランス感覚をもったコメントをするようにしています。これは、自分の意見がなく、まわりに流されているということでは決してありません。自分自身の意見はもちながらも、別の立場、別の意見にも配慮して、バランスをとった意見に「練り上げる」という行為になります。

⑧ この相反するいくつかのものの要素を組み入れて練り上げたものが、「深い」ものとして聞き手には伝わります。ひとつの「極論」よりも、多様な意見を包摂した「中庸」にこそ、深みはあるのです。このような多面的なものを見て、それらをひとつにまとめ上げていくバランス感覚の訓練としても、ネットのニュース記事を読む際は、コメント欄も同時に目を通すことをお勧めします。

*(注) 包摂する＝一定の範囲の中に包み込むこと

55

50

45

40

35

30

要がある。また、C な内容に終始しないようにする力、話の D をつかんで提示する力がともに求められる。

⑤
 「ア 発想 イ 理解 ウ 展開 エ 核心
 オ 結論 カ 多面的 キ 具体的 ク 抽象的」
 —線部②について太田さんがノートにまとめた。
 太田さんのノート

◎角度をつけることが大切！
 ←
 E(十五字)のみに偏ることを避けるため、
 F(二十字)ようにすること。
 ◎情報収集に有効なもの
 〓 ネットニュースのコメント欄

(6)
 i E・F に当てはまる最も適切な言葉を、本文中からそれぞれ指定された字数で抜き出して書きなさい。
 ii 線部を活用する利点と注意点が述べられた一文をさがし、最初の五字を書きなさい。

—線部③とあるが、筆者が「中庸」と表現している意見は、どのようにすることで成り立つか。また、「深み」のある話は聞き手にどのような変化をもたらすか。それぞれについて、次の〈条件1〉～〈条件3〉に従って書きなさい。
 〈条件1〉「筆者のいう中庸とは、」に続けて、最初に「中庸」について具体的に説明すること。ただし、「練り上げる」という言葉(活用させてもよい)を必ず用いること。

〈条件2〉二文目に、聞き手にもたらす変化について書くこと。
 〈条件3〉七十文字以上九十文字以内で書くこと。

【問二】青木さんのクラスでは、「歩行者の事故防止」について標語作りを行うことになった。グループに分かれて資料を集め、どのような標語がふさわしいか話し合っているところである。次のⅠ～Ⅳを読んで、下の各問いに答えなさい。

Ⅰ グループでの話し合いの様子

白川 まず、グループで集めた資料について話し合った後、「歩行者の事故防止」を呼びかけるための標語のテーマを絞ろう。資料Ⅰを見て、考えたことを教えて。

黒田 全国的に横断歩道での車の一時停止率が上がってきていることから、ドライバーの一時停止への意識が向上しているということが言えそうだね。特に長野県は、七年連続で一位つて、すばらしいことだよ。

青木 そうだね。長野県が一位なのは誇らしいけれど、資料Ⅰをよく見ると、長野県の直近の一時停止率は約八割だよ。厳しい見方をするとも言えるんじゃないかな。

白川 今後、そこをどう減らしていくかが課題だね。桃井さん、資料Ⅱについてはどうかな。

桃井 うん。びっくりしたんだけど、長野県は横断歩道での車の停止率が全国で一番高いといえ、歩行者事故の約四割が、横断歩道を渡っている時に起きているわ。今回の標語で、横断歩道での事故を防ぐための呼びかけができるといいんじゃない。

赤羽 桃井さんの提案に賛成だよ。横断歩道での事故を防ぐためには、車側が歩行者のいる横断歩道で、確実に一時停止することが大事だよ。加えて、歩行者側も横断歩道を渡ること

a

をドライバーにしっかりと伝えることも大切だと思う。たとえば、手を挙げたり、渡らない時は横断歩道に近寄らないようにしたり。

黒田 ああ、確かに大切だね。ほくは正直なところ、横断歩道で手を挙げるのを恥ずかしいと思ってしまうことがあるよ。でも特に交通量の多いところでは、手を挙げることで車が停止しやすくなるだろうし、事故を減らすことにつながりそうだね。

白川 私もそう思う。特に夕方から夜間にかけての歩行中は、赤羽さんの意見を踏まえた上で、私たち自身が身を守るための工夫をする必要もありそうね。そう言えば、長野県では、停車してくれたドライバーへのあいさつが習慣になっているみたいね。

桃井 小さいころから、横断歩道を渡った後はいつもあいさつをしていたから、それが当たり前だと思っていたわ。

黒田 歩行者とドライバーがお互いを思いやる気持ちを持てば、より横断歩道での車の一時停止率が上がって、歩行者の事故防止につながっていくのかもしれないね。

(1) Ⅰの□に当てはまる言葉を、十五字以内で考えて書きなさい。

(2) Ⅰの赤羽さんのaの発言について説明したものとして適切なものを、次のア～オから二つ選び、記号を書きなさい。

- ア 提案に同意するとともに、別の事例を示すことで、話題を転換しようとしている。
- イ 提案に対して自分の意見を述べることで、話題を焦点化しようとしている。
- ウ 提案に対する賛同できる点を挙げ、修正が必要な点についても、明確にしている。
- エ 提案に賛成した上で、具体的な方策を述べ、話し合いを進展させている。
- オ 提案内容を別の表現で分かりやすく言い換えた上で、自分の考えを付け足している。

(3) 線部について、私たちができることを一つ考えて、具体的に書きなさい。ただし、Ⅰの話し合いで挙げられた例と同じものは書かないこと。

(4) Ⅰの話し合いの中で白川さんが配慮していることとして、最も適切なものを次のア～エから一つ選び、記号を書きなさい。

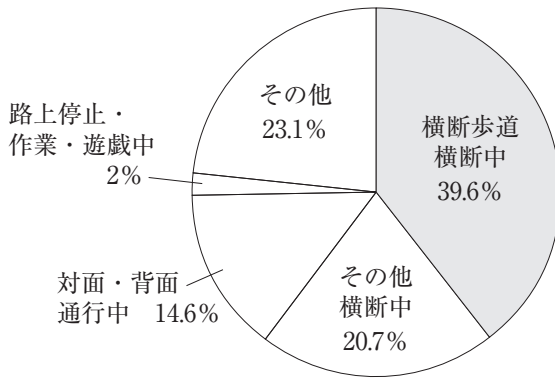
- ア 意見が偏らないように、発言者の意見の問題点と長所の両方を述べている。
- イ グループでの話し合いが深まるように、わかりに

資料1 【信号機のない横断歩道における車の一時停止率】

		平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
全国平均		7.6%	8.5%	8.6%	17.1%	21.3%	30.6%	39.8%
全国順位	1位	長野県 48.3%	長野県 64.2%	長野県 58.6%	長野県 68.6%	長野県 72.4%	長野県 85.2%	長野県 82.9%
	2位	非公表	非公表	静岡県 39.1%	静岡県 52.8%	兵庫県 57.1%	静岡県 63.8%	兵庫県 64.7%
	3位	非公表	非公表	石川県 26.9%	兵庫県 43.2%	静岡県 54.1%	山梨県 51.9%	山梨県 64.6%

(平成28年から JAF 実施の全国調査結果)

資料2 【令和4年度事故類型別 歩行者事故割合 (長野県内)】



JAF (一般社団法人日本自動車連盟) および長野県警察ホームページの資料をもとに作成

II 話し合いで用いた資料

赤羽 黒田さんに賛成だよ。「思いやり」を持つことが大切だね。
 青木 ほくも「思いやり」を持つことが大切という意見に賛成。歩行者、ドライバーのどちらか一方ではなく「お互い」というところに共感したよ。
 白川 いろいろな意見をありがとう。今までの意見を参考に、標語を決めていこう。
 (…話し合いは続く)

III 標語の候補

- ① ありがとう止まってくれた思いやり
- ② 守ろうよルールとマナーの長野県
- ③ 思いやりみんなで持とう横断歩道
- ④ 手を挙げて渡った後はありがとう

(5) 話し合いのあと、青木さんのグループはIIから標語を一つ選んだ。青木さんのグループが選んだ標語の番号と、あなたがそのように考えた理由を、次の〈条件1〉～〈条件3〉に従って書きなさい。

〈条件1〉最初に標語の番号を解答欄に書くこと。
 〈条件2〉青木さんのグループが、その番号の標語を選んだとあなたが考えた理由を、Iの話し合いの内容から説明すること。
 〈条件3〉五十文字以上七十文字以内で書くこと。

くい点を指摘している。
 ウ 相手にあわせて柔軟に自分の意見を変えて、話し合いの流れを大切にしている。
 エ 話し合いが円滑に進むように、相手の考えを踏まえた上で、話題を整理している。

【問三】 次の①～③から、誤って使われている漢字一字をそれぞれ抜き出して書き、同じ読みの正しい漢字を楷書でそれぞれ書きなさい。

- ① 新しい事業計画では、経験が少なくても情熱のある若い人材を器用することが決まった。
- ② 地球環境を守るには、他国との連携や強調の精神に基づいた姿勢が求められる。
- ③ 雨模様のため、客足に期待はしなかったが、案の条、来訪者は数える程だった。

【問四】 次に示すのは、文章Ⅰが『十訓抄』の一節、文章Ⅱが『荀子』の一節を書き下し文に改めたものである。これらを読んで、下の各問いに答えなさい。

文章Ⅰ

和邇部用光といふ楽人ありけり。土佐の御船遊びに下りて、上りけるに、安芸の国、
(平安時代の音楽家) 土佐神社での祭り 備京の途中に (今の広島県西部)

なにがしの泊にて、海賊押し寄せたりけり。弓矢の行方知らねば、防ぎ戦ふに力なくて、
港で 弓矢の扱いも知らなかったので

今はうたがひなく殺されなむずと思ひて、筆箒を取り出でて、屋形の上におゐて、「あの党や。
殺されるに違いない (雅楽の管楽器) (船の屋根) 一党の者達よ

今は沙汰に及ばず。とくなにもものをも取り給へ。ただし、年ごろ、思ひしめたる筆箒の、
あれこれ言わない 早く 長年 心に深く思ってきた

② 小調子といふ曲、吹きて聞かせ申さむ。さることこそありしかと、のちの物語にもし給へ
こんなことがあった

と いひければ、宗との大きな声にて、「主たち、しばし待ち給へ。かくいふことなり。
首領

もの聞け」といひければ、船を押さへて、おのおのしづまりたるに、用光、今はかぎりと
これで最後だ

(1) 文章Ⅰの~~~~線部の言葉を現代仮名遣いに直して、すべてひらがなで書きなさい。

- ① ゐて ② 取り給へ

(2) ——線部①「知らねば」と主語が同じであるものを、——線部ア～オからすべて選び、記号を書きなさい。

- ア 取り出でて イ いひければ ウ いひければ
 エ 涙を流して オ 漕ぎ去りぬ

(3) ——線部②について説明したものとして最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、記号を書きなさい。

- ア 筆箒を取り返すため、美しい音色を聞かせることを提案している。
 イ 長年取り組んできた筆箒を奏で、その音色で海賊に改心してほしい。
 ウ 筆箒と引き換えに、せめて命は助けてほしいと願ひ出ている。
 エ 死を覚悟し、長年取り組んできた筆箒を奏で、語り草にしてほしい。

(4) ——線部③で用いられている表現技法を書きなさい。

(5) ——線部④は、「安有不聞者乎」を書き下し文に改めたもので

おぼえければ、涙を流して、めでたき音を吹き出でて、吹きすましたりけり。

素晴らしい

をりからにや、その調べ、波の上にひびきて、かの潯陽江のほとりに、琵琶を聞きし折もよかつたのらうか

昔語りにことならず。海賊、静まりて、いふことなし。

よくよく聞きて、曲終りて、先の声にて、「君が船に心をかけて、寄せたりつれども、

曲の声に涙落ちて、かたさりぬ」とて、漕ぎ去りぬ。

ここは遠慮する

* (注) 潯陽江＝長江の別称。白居易(中国唐代の有名な詩人)が潯陽江に鳴り渡る琵琶の音に心揺さぶられ、「琵琶行」という詩を作ったことを指す

文章Ⅱ

むかし瓠巴を鼓して、流魚出でて聴き、伯牙を鼓して、六馬仰いで秣ふ。故に聲は

大きな琴を弾くと

水底の魚が

馬たちが(気持ちよさそうに)首をのばして草を食べた

音声

③ 小として聞えざること無く、行は隠として形はれざるは無し。玉山に在りて草木潤ひ、

淵珠を生じて崖枯れず。善を為して積まざるか、安んぞ聞えざる者有らんや。

(人間も善を重ねて努力をしなければそれまでのこと(努力をすればどうしてその善行が外部に伝わらないことがあるのか)

* (注) 瓠巴＝瑟(大きな琴)を弾く名人の名前。 伯牙＝琴を弾く名人の名前。

ある。返り点を付けなさい。

(6) 次の□は、文章Ⅰと文章Ⅱを授業で読んだ三井さんと青木さんが話している様子である。あとのi～iiiに答えなさい。

三井 どちらの文章も、楽器について書かれた部分があるね。
青木 文章Ⅰでは、□Aという文が、その音色に聞き入っている様子を最もよく表しているね。
三井 名人の演奏は、^⑤皆の心に響くんだね。
青木 うん。それから、文章Ⅱについて調べてみると、これは『荀子』の中で「勸学篇」に収められた文章で、学ぶことの必要性を述べているそうだよ。
三井 なるほど。そう考えると、文章Ⅱの「山に宝石があれば草木は潤い、淵に宝玉が沈んでいれば、崖肌はつややかである」というのは、□Bことをたとえているということになるんだね。

- i □Aに当てはまる一文をさがし、最初の五字を書きなさい。
- ii 線部⑤とあるが、文章Ⅱでは、その様子をどのように述べているか。聞き手を明らかにして、「名人の音色に」に続けて三十文字以内の現代語で説明しなさい。
- iii □Bに当てはまる適切な言葉を、次のア～エから二つ選び、記号を書きなさい。

- ア 力が内に備われれば自然と外にもあらわれる
- イ 力はひけらかさずに内に秘めておくのがよい
- ウ 善行は必ず世の中に知られるところとなる
- エ 教養を身につけることが唯一の善行である

【問五】 次の文章を読んで、下の各問いに答えなさい。

小学六年生の雪乃ゆきののは、父親と二人で曾祖母おばあのヨシ江が住む長野県に移り、父親が運営するカフェを店の美由紀とともに手伝っている。そのカフェへ、村に古くから住む正治まさちがやってきた。

「うちの義父や義母なんかは、決して悪気はないんですけど、アレルギーのことを軽く考えちゃうところがあって、『少しずつ食べて慣らしていけば治るだわ』なんて怖ろしいことを言うし、説明しようとしても、『昔はそんなことなかったにねえ』ってため息つかれて終わっちゃうし。……あ、ごめんなさい、なんだか愚痴みたいに聞こえますね」「いや。別にかまわねえだけでも」「ただね、うちの子だけじゃないですよ。日本中、いえ、世界中でアレルギー体質の人はものすごく増えて、環境や食生活の変化がそうさせてるわけだから、たしかに昔とは事情が違ってはいるんです。あの子のせいでもなければ、産んだ私のせいでもない……は？ なんですけど……頭ではわかってるんですけど、どうしてでしょうね。自分にはどうにもしようのないことを、人生の大先輩から『昔はそんなことなかったのに』って言われてしまうと、なんだか責められているような気持ちになっちゃうんですよ」

その横顔を、途中から雪乃は息を殺して見つめていた。わかってもらえているのだという安堵と、こんなかたちで庇ってもらおうことの申し訳なさが交差する。美由紀の言わんとするところは、聞いていた正治さんにも伝わったのだろう。苦い顔になって雪乃のほうを見る。雪乃が目とお腹に力を入れて見つめ返すと、正治さんはまた美由紀へ視線を戻した。

とうとう、ため息をついて言った。「やれやれ、わかったわかった。俺が悪かっただわ」怒り出すんじゃないかと思っただけで、雪乃の肩からも、ふつと力が抜ける。えらそうだけれど、この人を少し見直すような気持ちになった。

「さつきはよけいなことまで言っちゃったけども、俺が言いたかったのは、要するに、あれだ。あんたは幸せもんだ、ちゆうことだわ」「それは……はい」「昔と比べて言ってるんじゃないやえよう。今こん時、どんだけの人間があんたのことをかんげえてるかってことだ。おふくろさんもおやじさんも、俺らに頭下げなすつたに。あすこまで言われつちまっちゃあ、ほー、こつちもまるっと承知するしかねえによ」 あんただけじゃねえんだよう、と、もそもそ続ける。「俺にやあ小難しいことまではわかんねえけども、それつくれえのことはわかるだわ。誰だつて、そりゃあ人間だもの、てつくりけえつちまうことはあるに。けどな」 言葉を切り、正治さんは雪乃の目を覗き込んだ。「起き上がり小法師とおなじだ。てつくりけえつたら、ほー、何べんだつて起き上がんねえと」

夕方、家まで送りトドけてくれた美由紀は、いつもと同じく、につこり笑って手を振っただけで帰っていった。今日のことは気にしないように、とか言われるかと思っただけ、それもなかった。言おうが言うまいが、どうせ考えてしまうとうわかっていたからかもしれない。

25

20

15

10

5

(1) 文章中の~~~~線部を漢字に直して、楷書で書きなさい。

- ① トド ② メイワク

(2) 次の作品は、文章中にある漢字を行書で書いたものである。楷書で書いた場合と比較したときの○で囲まれた部分に表れている行書の特徴として最も適切なものを、下のア〜エから一つ選び、記号を書きなさい。



- ア 直線的 イ 点画の連続
ウ 筆順の変化 エ 点画の省略

(3) 線部a〜eについての説明として適切なものを、次のア〜オからすべて選び、記号を書きなさい。

- ア aの「息を殺して」には、雪乃がふたりの会話に加わることでできない悔しさと悲しさが表れている。
イ bの「苦い顔になって」には、正治が自分の言動を省みて、決まりが悪い思いを抱いている様子が表れている。
ウ cの「ふつと力が抜ける」には、これまで雪乃が正治を警戒していたことを表し、正治への印象の変化が含まれている。
エ dの「言葉を切り」には、正治が雪乃に大切なことを伝えたい思いを抱きつつ、再び余計なことを言うことへのためらいが表れている。
オ eの「につこり笑って」には、正治とのやりとりでひどく傷ついた雪乃に対する、美由紀の気遣いが表れている。

台所に立ち、ヨシ江の手伝いをしながら雪乃は、あの寄り合いの晩のことを一つひとつ思い起こしていた。いくら家族と一緒といっても、こちらで暮らしていない母親にとって、知らない人間の集まる席はどんなにか気詰まりだったろう。周囲の目は、よそ者に対して厳しい。この土地に根を下ろそうとしている父親でさえさんさん苦労してきたのを雪乃も見て知っているし、それが、娘を置いて都会で仕事を続けている母親となればなおさらだ。それでもなお、両親は皆に頭を下げた。娘をよろしく頼む、と。こちらへ越してきてよかった、おかげで周りのみんなに見守ってもらえる、と。(あすこまで言われつちまっちゃあ、ほー、こっちもまるつと承知するしかねえによ) そっぽを向いて、ちよつと悪ぶってみせるような正治さんの声が、耳の奥でずきん、ずきん、とこだましている。

〈あんたは幸せもんだ、ちゆうことだわ〉

雪乃の口から、熱く湿った息がもれた。いじめなんか挫けて、学校へ行けなくなる自分。周りにメイワクばかりかけている自分。住む場所どころか家族のかたちまで変え、仲良しの父親と母親を離ればなれにさせてしまった自分。そんな自分が、大嫌いだ。誰からも気に懸けてほしくなかった。こっちを見ないでほしかった。そうはいかないとわかってからは、せめてこれ以上心配されずに済むように、あえて何でもなさそうにふるまってきた。

考えてみるとそれもこれも、全部自分のことばっかりだ。周りに申し訳ないと思うのだった、情けないと思うのだった、結局、自分、自分、自分。あらゆる考え方や感じ方の中心は自分でしかなくて、いつもひとりぼっちだと感じてきた気がする。誰かから「恵まれている」と言われれば、頷くしかなかった。頷きながら、それでもつらかった。

でも、きつと、そういうことじゃないのだ。正治さんが言ったのは、きつとそういう意味じゃない。置かれている立場とか状況のことを言っただけで、だから感謝しろと迫っているんじゃない。(あんたは幸せもんだ、ちゆうことだわ)

言葉にするとあまりにも当たり前のことだから、耳にタコ、みたいな感じですつかりわかっているつもりでいた。全然、わかっていなかった。まったく、少しも。

この、シゲ爺とヨシばあばの家でのびのびと寝起きして、父親ともども畑やブドウやカフェのことに心砕きながら毎日を送り、母親とはテレビ電話で顔を見ながら話し、勉強を見てもらう——そういう今の自分を支えているのは、家族みんなの想いととも、それを許してくれている周囲の人たちの視線でもある。時に鬱陶しく、時に監視されているように感じたとしても、そうした周りの人たちがみんなの視線があつたからこそ、自分はここで暮らすことを柔らかに許されてきたのだ。そんなこともわからずに、文句ばかり並べて、あの人がわかってくれないとか、思うようにならないとか、自分が好きになれないとか。

〈あんたは幸せもん……〉

(村山由佳「雪のなまえ」)

60

55

50

45

40

35

30

(4) — 線部①について、正治が悪かったと言った内容を次のように表すとき、**A**・**B**に当てはまる適切な言葉を、本文中から十字以上十五字以内で抜き出して書きなさい。

雪乃が学校に行っていないことに対して、「**A**の**B**」と指摘し、雪乃に**B**を抱かせたこと。

(5) — 線部②は、「あそこまで言われてしまうと」という意味だが、その内容を指すひと続きの二文をさがし、一文目の最初の五字を書きなさい。

(6) この文章を読んだ藤田さんは、くり返される——線部に着目し、印象に残ったことについて、次のようにまとめた。**C**に当てはまる適切な言葉を、あとの〈条件1〉・〈条件2〉に従って書きなさい。

雪乃は、偏屈に見えて実は情のある正治さんから掛けられた——線部の言葉を反芻するうちに、これまでの自分を振り返り、自分の幸せについて捉え直していきまます。そして、今まで**C**に気づいたのです。その大きな変化が心に残りました。

〈条件1〉話の展開を踏まえ、ひとりぼっち、視線という言葉、この順で使って書くこと。
 〈条件2〉七十文字以上九十文字以内で書くこと。